

各位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第10号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第10号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）																
月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年(°C)	R4(°C)	平年差(°C)	平年(°C)	R4(°C)	平年差(°C)	平年(°C)	R4(°C)	平年差(°C)	平年(mm)	R4(mm)	平年比(%)	平年(hr)	R4(hr)	平年比(%)
7月	1	25.4	28.7	3.3	29.2	33.5	4.3	22.4	25.2	2.8	90.3	16.5	18	16.3	25.6	157
	2	26.1	28.5	2.4	30.1	33.0	2.9	23.0	25.2	2.2	83.2	14.5	17	20.3	32.7	161
	3	26.7	28.1	1.4	30.9	31.5	0.6	23.5	25.2	1.7	61.9	23.0	37	24.2	14.1	58
	4	27.3	27.1	-0.2	31.8	31.0	-0.8	23.9	23.8	-0.1	43.1	129.5	300	28.0	12.3	44
	5	27.7	27.4	-0.3	32.5	31.2	-1.3	24.2	23.8	-0.4	36.2	5.0	14	31.4	29.9	95
	6	28.1			33.0			24.5			39.2			41.0		

○7月4～5半旬の平均気温は、平年に比べて0.3℃ほど低く推移した。また、曇天が続いたことで寡照傾向となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月26日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	莖数 本/㎡	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/18移植 武雄市橋町	本年値	83.6	350	11.0	41.2	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く、莖数は少ない。 ※10～11葉身長が著しく伸長している 主幹出葉数は平年より0.4葉少ない。 幼穂長1mm、節間長15～20mm 幼穂形成始期7月26日頃 ※移植時期に応じた生育ステージでは平年よりやや早い 葉色は平年より濃い。
	平年値	75.8	386	11.4	39.2	
	平年比	110	91	-0.4	+2.0	
さがびより 6/23移植 武雄市橋町	本年値	61.5	405	10.0	43.1	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く、莖数は少ない。 主稈出葉数は0.4葉少ない。 葉色は平年より濃い。
	平年値	57.4	433	10.4	41.3	
	平年比	107	94	-0.4	+1.8	

※夢しずくおよびさがびよりの平年値はH21～R3の平均値。 耕種概要は稲作情報第9号参照

3. 管内の生育状況（7月26日時点）

- 七タコシヒカリ：現在、成熟期である。
- 夢しずく（普通期）：現在、幼穂形成期である。

《参考》管内における夢しずく生育状況：7/26時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
6/12 移植（江北町）	幼穂形成期	幼穂長 3mm

- ヒノヒカリ、さがびより：現在、分けつ発生盛期～穂首分化期である。

《参考》管内におけるヒノヒカリ生育状況：7/26時点

移植時期（市町）	生育ステージ	備考
6/20 移植（白石町）	穂首分化期～幼穂形成始期期	節間長 3mm 幼穂は未確認

4. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、幼穂形成期である。

- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期である。特に穂孕み期から穂揃期（8月1日～8月18日）は浅水管理とする。
- ・初期生育量が十分に確保できずに、幼穂形成期以降草丈が伸長しうっぺいした圃場を散見する。そのような圃場では紋枯病を確認しているため、早期防除に努める。

(2) 普通期水稻

○現在、分けつ発生盛期～穂首分化期である。

7月中旬以降の曇天の影響を受けて、草丈が高く推移しており、葉色が濃くうっぺいした圃場を散見される。そのような圃場では、「葉いもち病」の病斑を確認しているため、穂肥の施用については、下記の診断基準に基づいて適期適量施用する。

①ヒノヒカリ

○6月下旬に移植されたヒノヒカリは、まもなく幼穂形成始期を迎え穂肥施用時期となる。

下記の診断基準により穂肥診断を必ず行い、適期適量の施用につなげる。

【表1 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色		穂肥施用時期			
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
80 cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	3.0kg/10a
	濃い	3.5～3.8	38～39	16 日	5～15mm	2.5kg/10a
80 cm 以上	濃い	3.8 以上	40 以上	15 日	15～30mm	1.0kg/10a
	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5 以上	38 以上	穂肥は施用しない		

②さがびより

穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となる。

幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の診断基準により穂肥を施用する。

【表2 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg/10a	
		群 落	SPAD				
穂肥診断時	75 cm 以下 (標準)	2.5 以下	33 以下	5ミリ	20～18日	2.5kg	
		3.0	33-37	10ミリ	18日	2.0kg	
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg	
	75 cm～ 80 cm	3.8 以上	39 以上	施用しない			
		3.0 以下	36 以下	10ミリ～15ミリ	18～16日	1.5kg	
	80 cm 以上	3.0 以上	37 以上	施用しない			
			施用しない				

(3) 病害虫対策

1) いもち病

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底する
発生が多いと予想される場合（上位3葉に葉いもち病の病斑を確認した時）には穂揃い期にも防除を行う。
薬剤の使用にあたっては、使用時期や回数等の農薬の登録情報に注意する。
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉色が濃い圃場で、葉いもち病の病斑を確認している。
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。
- ・BLASTAM 情報は下表参照。



葉いもち病の病斑
葉色が濃い圃場にて確認

BLASTAM（ブラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。

ブラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。

BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

佐賀県農業技術防除センターHPより

7月

	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
白石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊万里	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-

- 1: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は20℃未満)
 - 2: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温は25℃以上)
 - 3: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温は15～25℃の範囲外)
 - 4: 準好適条件 (湿潤時間は湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
 - : 好適条件の出現なし
 - ?: 判定不能

2) ウンカ類

- ・本年は、6月23～25日頃、7月8日頃、7月19日頃にトビロウンカの飛来が確認されている。
- ・7月25日巡回調査結果は表3参照。また、セジロウンカ、トビロウンカの誘殺状況については表4参照。
最新データは、佐賀県農業技術防除センターHPを参照する。
- ・今後の飛来状況や圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

表3 管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R4)

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
7月25日							
6月12日移植	0	0	0	0	1	0	夢しずく(江北町)
6月18日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく情報田
6月20日移植	0	0	0	0	4	2	さがびより(白石町新拓)
6月23日移植	0	0	0	0	1	3	さがびより情報田

※25株は払い落とし総数

表4 海外飛来性害虫ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況

	トビロウカ				セジロウカ				コブノメイガ			
	佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県			長崎県
	佐賀市	嬉野	諫早		佐賀市	嬉野	諫早		佐賀市	白石	武雄	諫早
	ネット	ライト	ライト	ネット	ネット	ライト	ライト	ネット	トラップ	トラップ	トラップ	トラップ
6/20	0	0	0	0	0	4	0	0	0			1
6/21	0	0	0	0	2	0	11	0	0	0	0	0
6/22	0	2	0	0	5	1	1	1	0			0
6/23	1	0	0	0	4	0	0	0	0			0
6/24	1	7	0	0	3	2	1	2	-	0	0	0
6/25		41	0	0		18	3	1	0			2
6/26	0	1	0	0	2	2	0	0	0			0
6/27	0	65	0	0	1	8	0	0	0			0
6/28	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0
6/29	0	0	0	0	0	0	1	0	0			0
6/30	0	0	0	0	0	0	0	0	0			1
7/1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
7/2	-	0	0	0	-	0	0	0	-			0
7/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
7/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0			1
7/5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/6	0	1	0	0	0	0	0	0	0			0
7/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
7/8	0	36	0	0	0	71	5	0	0	0	0	0
7/9	-	2	0	0	-	9	3	0	-	0	0	0
7/10	0	1	0	0	0	1	0	0	0			0
7/11	0	1	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0
7/12	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1
7/13	0	0	0	0	0	4	2	0	0			1
7/14	0	0	0	0	1	9	3	0	0			1
7/15	0	5	0	0	0	10	9	0	0			3
7/16	0	7	0	0	0	4	16	1	0	0	0	0
7/17	0	4	0	0	0	2	8	0	0			5
7/18	0	2	0	0	0	1	1	0	0			1
7/19		113				74			0			
7/20									0			

3) 斑点米カメムシ

- ・出穂15日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。

カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。

畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。



エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている

4) 紋枯病

- ・幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後気温が高くなることから、紋枯病が一気に進展する可能性があるため発生には十分注意する。
- ・病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。
(液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除を目安とする)



紋枯病

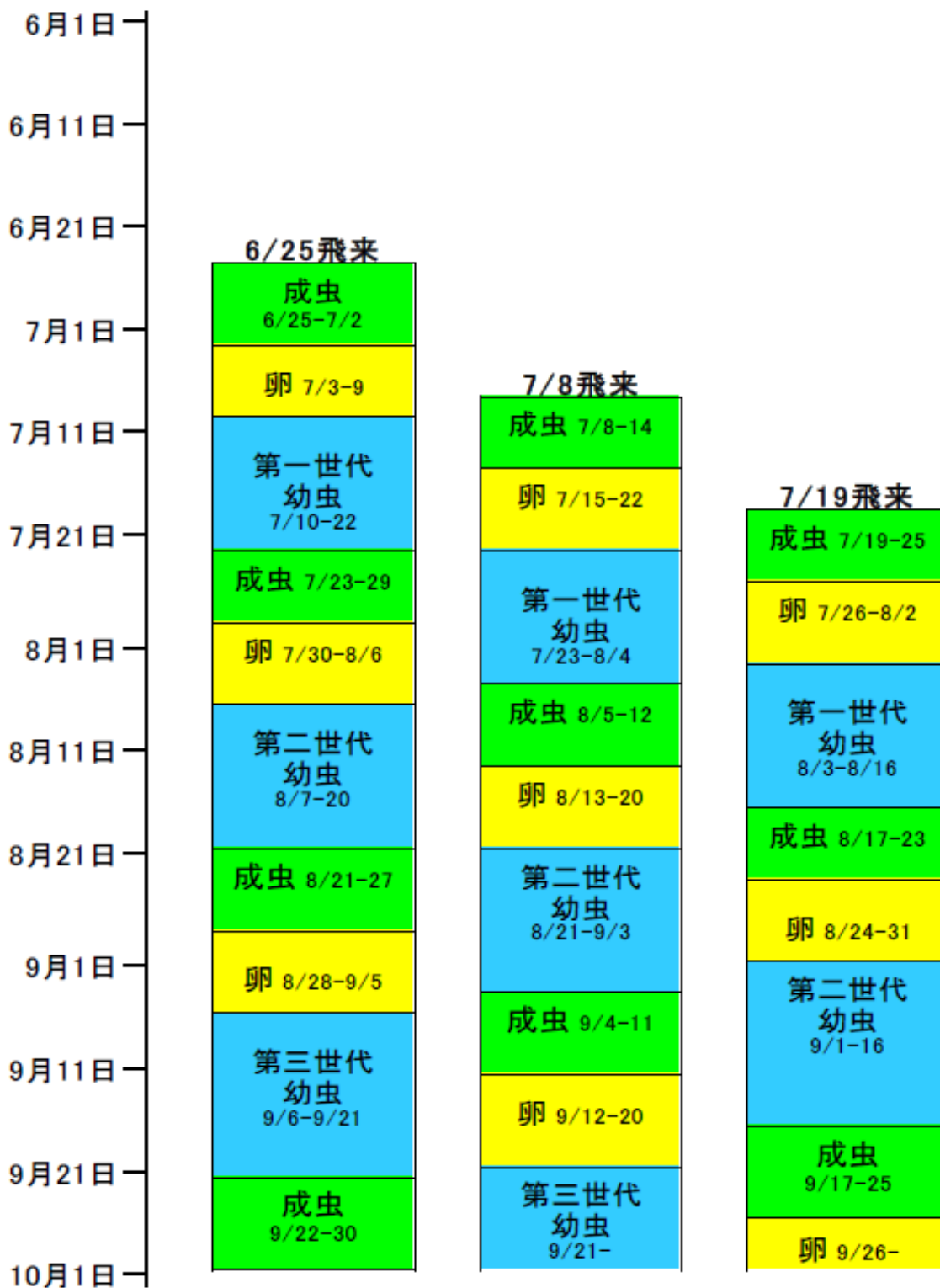


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2022年7月20日作成)

1. 6月23～25日頃(図では6月25日)、7月8日頃、7月19日頃の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月20日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の飛来状況や気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和4年産 水稲作付期間気象図
アメダス観測値(白石)

